

③ ブロッコリー 高温期の製品率向上に向けて

高温期の7月下旬～8月中旬収穫作型で製品率が低下している事例があり、これらのほ場では、生理障害と花蕾腐敗病が見られました。JA北ひびきの選果状況からも同様の時期に外品率の高まりが見られます。栽培方法で改善できる技術を紹介します。

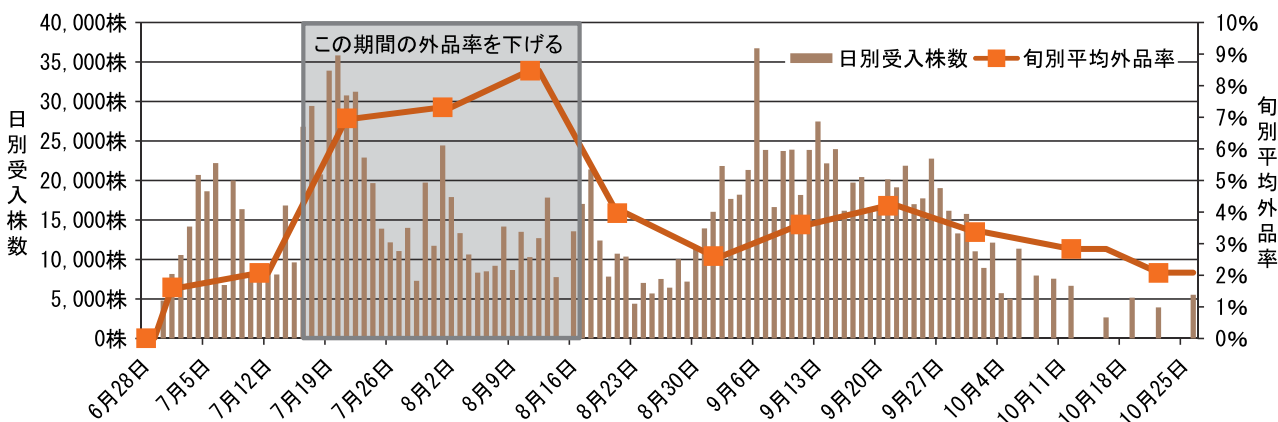


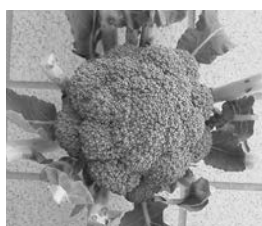
図2 JA受入株数と外品率の推移

【1】品種で対応する～生理障害～

当該時期は「おはよう」と「ピクセル」が栽培されています。試験結果から、不整形花蕾の発生が少なく、花蕾特性が優れる「おはよう」が適した品種と考えられます。さらに、本年試験栽培を行った「SK9-099」は「おはよう」より花蕾腐敗病の発生が少なく、8月上中旬作型への導入が期待される品種です。

SK9-099(サカタ)

(H27試験、8月上中旬作型、おはよう対比)



- ・生育日数は2日短い
- ・草姿は立性で葉の先端まで立つ
- ・腋芽の着生は少ない
- ・茎長は5cmほど短い
- ・花蕾特性・不整形花蕾発生率は同等

◎花蕾腐敗病発生率は少ない

おはよう(サカタ)



- ・早晚性：早生
- ・草姿は極立性で草勢やや強い
- ・花蕾形状の安定性高い

ピクセル(サカタ)



- ・早晚性：早生
- ・草姿はやや立性で草勢は中程度
- ・気温が上昇する8月どりでは高温障害が出る場合がある

【2】防除で対応する～花蕾腐敗病～

花蕾形成始(約1cmに肥大した時期)前後の銅水和剤による2回防除は花蕾腐敗病に対して効果が高く被害軽減に有効です。日中高温時の防除は薬害(葉焼け)を生じる場合があるので避けます。また、一つ前の作期の鋤き込み遅れ=腐敗源の放置は、伝染源の温存に繋がるため速やかな鋤き込み作業を行います。

【3】その他

透排水性改善、pH矯正、小畦作りなど環境を整えて障害・病害の発生しづらい環境作りを行います。



図3 小畦立て